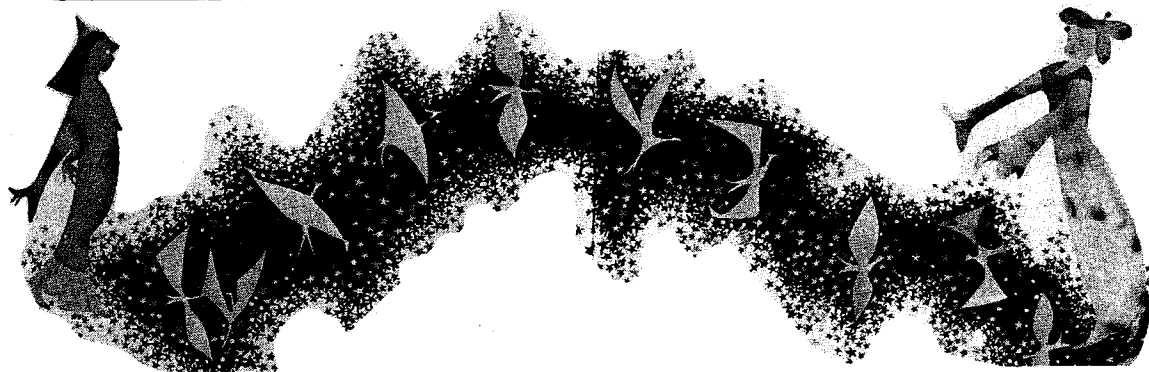


# 図書館たより

号数 第 81 号  
発行日 昭和63年 6 月30日  
編集行 島根県立図書館  
松江市内中原町52  
TEL (0852) 22-5725  
印刷 島根印刷株式会社



初山 滋画「たなばた」より

## 美しい笛の音をかなでよう

島根県立図書館長 白 枝 祥 男

「笛吹けども踊らず」(新約聖書マタイ伝第11章)というが、その意味は、すっかり準備をととのえて誘導するのに、人がこれに応じて動き出さないことである。立派な図書館があり、豊富な図書があっても住民の利用がはかばかしくないとすると、その責任は笛の吹き手である図書館員の責任である。お粗末な施設、貧弱な装備となると、責任の大半は設置者にあるとも言えようが、図書館員もその責をまぬがれることはできない。

ところで、図書館という用語は、明治18年の東京図書館以来であり、読みが「としよかん」になったのは、明治30年代であって国産語である。ちなみに中国で図書館なる名称が出て来たのは、清朝末期光緒帝が大改革に取り組んでいた頃(1904年)と言われている。日中両国ともに西洋を目標にした文明開化の時代の所産であろう。

中国に範をとった図書寮(ずしよりょう)は、令制官司であり、大宝律令(701)により中務省に置かれた。職掌は儒教仏教の典籍や仏像の保管、国史の撰修、各典籍の書写・表装、紙筆墨の支給などとなっていたから、仏教立国の中核であるとともに、印刷製本所であったにちがいない。洋の内外を問わず古代国家にあつては、国内外の地図、兵役等のための

戸籍、租税の資料、祭祀や伝承など統治上の記録を司どる図書館は、本来極めて重要な存在であつた。

人類文化の発達と市民社会の形成につれて、図書館は、文化・歴史の殿堂として住民に奉仕する役割を担うようになった。そこでの図書館員の使命は、利用者に利便を提供することと、所与の条件のなかで可能な限りの装備をすることの二つに大別される。利用者の要求に応える場合は、単なる本の貸し借りのほかに問合せの内容に対する回答とがあり、知的な能力が大いに求められる。書籍・資料の整備は、常識的でありかつ専門的な知性が一層必要とされる。限られた購入予算を生かして、年度のなるべく早い時期に「良いもの」を揃えるためには、一人ひとりの図書館員が大いに研鑽し、勉強しなければならない。単にリクエストに応えたり、ベストセラーを並べたりだけではなく、そこには知性にあふれた、哲学と信念が求められている。公共図書館のサービスの原点は、個々の図書館員の知識と能力とそして意欲にかかっている。読書運動の成果はその上に築かれるであろう。

良い笛も良い吹き手がいなければ美しい音は出ない。お互いに美しい音色を求め、努力を続けようではないか。

# 公共図書館めぐり⑧ 東出雲町立図書館

八束郡東出雲町揖屋1-139-2  
TEL (0852) 52-3297

## 図書館の状況

東出雲町は旧意東村、出雲郷村、揖屋町が合併した町で、人口は11,600人あまり。機械、鉄工、水産加工関係の工場が多く、県営住宅、雇用促進住宅があり、人の移動が割合に多い町です。

図書館は中央公民館図書室、中央図書センター、そして61年10月東出雲町立図書館になりました。

図書館は、町の中心地、町民会館の中にあります。町民からの寄贈や購入により蔵書が増え狭くなりました。図書室当時は、閲覧室、児童室、書架と別室になっていたものが、現在閲覧室が無くなって書架に机、椅子があり皆さんの利用に不便になってきました。夏休みなどは大変な混雑です。早急に小さくても、それぞれの部屋が別個になった施設がぜひ欲しいところです。

蔵書数は成人図書、児童図書合わせて本館に11,200冊、町民1人当たり1冊弱、地区公民館図書を含めて1人1冊あまりになります。県立図書館から2,000冊借受け、図書館、子供読書会単位で利用させていただいています。昨年は町ライオンズクラブから糖尿病関係の図書50冊の寄贈を受けました。

## 図書館の活動

### (1)貸出業務

#### ●館内の利用状況

成人図書と児童図書ほぼ同数の利用数があります。貸出冊数は、町民1人当たり1冊弱。

貸出冊数は増加していますが、利用者数は、ゆるやかな減少傾向です。子供達が多く利用してくれれば、成人も多く足を運んでくれるものと期待して、児童図書に力を入れてしまいます。成人利用者は固定して、かえって図書選定に配慮がいります。少ない予算での図書充実にも苦慮しています。

#### ●館外の利用状況

各公民館、地区集会所へ配本し、利用者の便宜を図っています。

幼稚園、保育園へ配本し親子読書の推進を勧めています。親子読書で培われたことが、読書好きになる基礎ではないでしょうか。又お田さんの参考になるよう育児書なども配置しています。

## (2)その他の活動

#### ●親子で絵本を読む会

月2回行っています。職員が読んで聞かせたり、お田さんに読んでもらったりしています。ことばも多くなり、この本読んでと持って来るようになりました。

#### 読み聞かせのもよう



#### ●子供読書会

県図書より子供読書のモデル指定を受け、自主活動になって2年目をむかえました。熱心な指導者に恵まれ

活動は活発に行われています。町内5グループで行っており、発足当時より参加人数は多少減っていますが、反面きめの細かい指導ができています。子供達は喜んで参加し、こんなところが面白かったよと話合ったり、帰りには図書館でも本を借りるようになりました。活動内容などは、子供読書だよりなど発行して、保護者、町民にPRしています。今日の社会にあって心豊かな子供に育ててほしいと願っています。

#### ●成人読書会

意東地区には、第一線を退かれた方たちで結成された読書グループ「つみくさ」があり、10数年続いて盛んに行われています。これに刺激されて、お田さん読書会も発足しました。このグループは子育て真っ最中、読書感想ばかりでなく、育児についての悩み等話し合ったりと多忙な中、なかなかの盛況のようです。このお田さん達は、公民館で子供達に、読み聞かせをしておられます。

#### 今後の課題

読書指導者を掘り起こし、読書サークルの育成をしたり、昔話の語り伝えをお年寄りにお願いしたり、遊びの伝承をしたいと考えています。

皆さんにもっと利用していただける図書館にしていくよう努力したいと思います。

# 読書の喜びを知る

(読書体験記入選作品)

邑智郡瑞穂町 田 中 和 子

一日の農作業を終えて、夕食の後片付けが済み、ほっとしてテレビの前にすわり、何時ものように画面を見ている。9時のニュースセンターが終り10時となり、身体の疲れがどっと出て、快い睡魔がおそ

う。

床に入るや否や朝までぐっすり眠る。

昼の仕事のときふと昨夜のテレビのドラマは何だ

ったかと、思ってもなかなか思い出せない。テレビを見るために、テレビの前にすわっているが、惰性となりもはや習性化しているだけで、心ここにあらずといったところだ。

昨日が今日に、また明日に変わりなく過ぎてゆく穏やかな田舎の毎日である。

この繰り返しの中で、秋の一番良い時期を本当に自分のために生かして見ようと思いたち、テレビの前からはなれて、本にむかうことにした。

何時か読もうとして買っていた、向田邦子の短編小説集「隣の女」を引っ張り出した。

年齢も同じで今まで生きてきた少女時代のさりげない風景や、心の動きが素直に書かれて、みな肯くことばかり、夢中で頁をめくる。

サスペンスもスリルも恋もないが、平凡でどこにもある庶民の生活が生き生きと書かれている。40年前がかえったようだ。

同時代を共にし、生きて共感が強い説得力をもって私に話しかけてくる。

秋の夜のしじまの中に向田さんと2人で、「そうそう、そうね」と完全に物語りの中に入っている。

読むことの楽しさが、私をとらえてはなさないようになった。

「夜中のバラ」、「父の詫び状」、「無名仮名人名簿」と次々と読み、とどまるところがない。向田さんが

待っているようで、夜の後片付けが済むと早々に机にむかう。

2時間は完全に読書の中の世界である。

読書の効用というような、むつかしいことは分らないが、読後のすがすがしさと、胸にこたえるような作者の響きが伝わってくる。

同じような日々に変化の心が湧いてきたようである。心に彩りができたようでもある。

物の見方の作者の鋭さに驚き感心する。

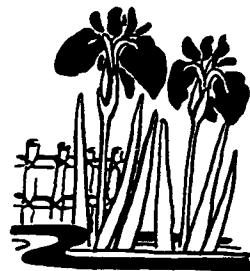
読書によって、心の中に繊細な感情を呼び起こさせてくれる。気付かなかったことが気付く。

今のところまだ、むつかしく長編のものは手がつかないが、必ず三国史に挑戦して読破して見たいと、意気だけは盛んである。

読みたいと思う本があることは、幸せな夢を持っていることだと思っている。

老眼鏡をかけて、スタンドの灯りの中に浮ぶ活字を読み、ふと、目を闇の外にむけると、虫の声が澄んだ音色で鳴いている。

ゆったりとした気持ち。豊かな私自身の時間である。



★ 「食卓のない家(円地文子)」…渡辺先生(読書会講師)は作者の視点の確かさと深さを大変評価

され、「この親の苦しみを思う時、これほどの大きく絶望的な深い苦しみがらすれば、今のいじめの問題に悩む親たちのそれなどちつばけなものではないかしら……」とおっしゃる。

しかし、他人の悩みと自分の悩み、それが、前者は大きく絶望的で、後者は小さく一時的であっても、同じ次元で論ずることは出来ないと思う。子供に対するいじめといった進行形的な悩みから解放された年代の先生には、人生的な、人類的な深い悩みの方に惹かれるものがあるのだろうか。私たちの世代は、しかし、まだまだ我執を捨てきれない。

★ 「冷たい夏・熱い夏(吉村昭)」…皆が感動し、読後感の言葉を失う。この後、話題は宗教へ転ずる。渡辺先生がNHKの釈迦の生涯について話されたことから、釈尊という人間の偉大さをイエスとの比較の中で論じ合う。手持ちの知識で釈迦やイエスについてわかった気になっているところがある。あらためてその深さ、偉大さに出合う機会を持ちたい。

★ これは私たちの読書会記録の一部です。今の自分を作品にオーバーラップさせ、我執に苦しみ己を内察したり、あるいは皮相的な理解にとどまっていた聖賢の教えを、より深く学ぼうと決意したりする姿に、読書の営みが、我々にさまざまな契機を与えてくれることが窺えます。そして、こうした営みが、些事の合間を縫って集まろうとする意欲をかきたて、主婦の座に安住しがちな私たちに、日

常を離れた別種の生きる喜びを与え、さらにはこの会へと誘ってくれるのではと思います。

ところで、このような生きる喜びと読書の愉しみを求めての集りも根づくまでには紆余曲折がありました。といいますのは、私たちの住まいする白濁地区では文化的なことはなかなか根づかない嫌いがあります。そこで、継続できるものをということから公民館主任の先生の発案で、28名の会員をもって昭和54年4月に白濁公民館読書会が発足しました。当初、県立図書館から本を借りてはいましたが、藤沢秀晴、栗間久、桑原富雄、田中瑩一、酒井重美の諸先生を迎え、諸先生のお話を中心にした懇話会といった形式で始めました。その後、公民館の紹介で講師として渡辺郁子先生を迎え、やっと読書会の体裁をとることが出来、現在に至っております。

その間、話題になった作品は、「冥府回廊」、「贈られた眼の記録」、「食卓のない家」などで、女性の集りだけに、選定はどうしても女の生き方、過ごし方を中心としたものになりますので、偏らないように、交代で選定するように心がけています。

以上が、私どもの会の活動状況ですが、この会に参加をして、子は親の背を見て育つといわれる、その背を少しでも輝くものにしていきたいと思ひます。

読書会グループ紹介  
私達のグループと読んだ本  
白濁公民館読書会

グループ名 「白濁公民館読書会」  
会員数 13名  
代表者 長谷川紀子

NEWS

★「子どものつどい-小学校中・高学年向-」の開催

恒例の子どものつどいを5月29日(日)県立図書館集会室で開催した。プログラムは、①子どもの本の紹介②映画とお話-小学6年生による手作り映画「戦国法吉合戦物語」講師、松江市立法吉小学校、穴道正年先生③人形劇「三枚のおふだ」の上演でした。今年は他のレクリエーション行事がかさなった関係で、例年にくらべて参加者がすくなかったが約50名程の子供達があつまり楽しい一時を過ごした。

★島根県読書推進運動協議会役員会の開催

6月10日(金)むらこも会館に新役員を迎えて開催された。議事は①役員改選、②62年度事業報告・決算報告③63年度事業計画・予算であったが、すべて承認された。新年度事業の主なものは①読書普及研修会(県公図と共催)②読書体験記の募集③機関紙「ふれあい」年3回、「島根読進協」年1回の発行配布。新会長、副会長は次のとおり。

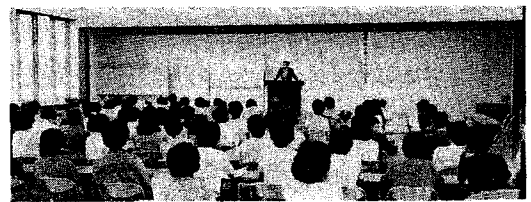
会長 岡 正 副会長 今井 彰  
副会長 永嶺正一

★島根県公共図書館協議会総会並びに講演会の開催

6月8日(水)、9日(木)津江市商工会館で開催された。第1日目は、昭和63年度事業計画及び収支予算に

ついて承認を得、その後、「アメリカと日本の図書館事情」と題し、日本図書館協会事務局次長の小川俊彦先生の記念講演があった。2日目は「図書館と子供の読書」の演題で講演をいただいた。なお、初日は約50名、2日目は、約110名の参加があった。

講演会のようす



★人事異動

お世話になりました。  
館長 稲田健二(退職)  
よろしくお願ひします。

館長 白枝祥男(県立女子短期大学事務局長から)  
主査 木佐由延(資料課長から西部読書普及センターへ)

主任司書 内田 融(西部読書普及センターから普及係へ)